

わくわく田底っ子

第22号

文責：校長 益永 一幸

PTA愛校作業 ～ありがとうございました～



10月15日（日）に運動会前の愛校作業が行われました。たくさんの保護者や児童が集まって、朝7時から運動場や校舎周辺の清掃作業を行っていただきました。また、テント設営も行っていました。

お忙しい中ありがとうございました。21日（土）の運動会も安全な環境の中行うことができそうです。

教育広報誌「with you」第14号に田底小のことが紹介されました

広げよう地域教育の輪

特色ある地域教育の取組をリレー方式で発信し、子どもたちの多様な学びを支援します。今回は、田底小学校の「学校と地域の連携・協働のための意見交換会」の取組について紹介します。田底小学校では、学校評議員会の枠組みを活用し、下記の目的に資するため、昨年より地域の方を招いて意見交換の場が設けられています。

- ① 学校教育目標にある「よりよい未来を拓く田底っ子の育成」の実現のために、学校の教育課程を地域に開き、学校、家庭、地域が連携・協働しながら教育を推進する。
- ② 教育課程の実施に必要な教育資源（ヒト、モノ、コト、カネ）を活用する体制を確保し、田底小学校教育活動の質の向上を図る。

参加者は、田底小学校の教職員をはじめ、学校評議員を含む地域関係者（自治会、防犯・交通安全協会、植木温泉組合、PTAなど）、行政（まちづくりセンター、教育委員会）、大学教員などで構成され趣向を凝らした協議が行われています。

ワークショップでは「田底の良いところを見つけよう」と題し、グループごとに地域の特色や教育資源を再確認しました。（たとえば、田底の豊かな自然、人の気持ちを大事にする子ども、良好な地域と学校のつながり、各種温泉・行事イベントの実施や、校区を横断するサイクリングロードなど。）意見交換「学校と地域の連携・協働できるアイデアを集めよう」では、教職員から地域の協力が必要な学習について提案があり、低学年の「地域探検はどこに行くと良いか」の話には、参加者から「駄菓子屋に来てほしい」、「めだかがいる水路を案内するよ」などの話があがっていました。10月には、植木温泉で行われるお祭りで、6年生が飲食店と協働して新メニューを考えて販売する予定です。このような活動を通して、「よりよい未来を拓く田底っ子の育成」という学校教育目標の具現化が図られていくものと感じました。